

[18] ザンビア

1. ザンビアの概要と開発課題

(1) 概要

(イ) ザンビアは1964年の独立後27年間は、初代カウング大統領の下、社会主義一党独裁制であったが、1991年に複数政党制に移行して以来、4度の総選挙を大きな混乱もなく乗り切り、民主政治が定着している。2002年1月に成立したムワナワサ政権（2001年12月の大統領選挙において与党複数政党制民主主義運動（MMD : Movement for Multiparty Democracy）の大統領候補として勝利）は汚職の追放や経済財政改革に重点的に取り組んできている。同大統領は2006年9月に行われた総選挙で再選を果たした。

ザンビアは独立以来、内戦やクーデター等深刻な政治的混乱を経験しておらず、多数のアンゴラ難民を受入保護してきたほか、モザンビークやルワンダにPKO要員を派遣する等、地域の安定に積極的に貢献しており、こうした平和外交姿勢は国際社会においても高く評価されている。我が国の国連等の場での活動に対する良き理解者であり、両国関係は良好に推移している。

(ロ) 同国は2005年の一人当たりGNIは500ドルであり、後発開発途上国の1つである。同国では、農業、観光、地場産業の振興、インフラ整備等、経済社会開発のニーズが高い。同国の経済は、植民地時代から続く銅の生産に依存するモノカルチャー経済（銅が輸出額の6割を占める）であるが、現ムワナワサ政権では農業、観光を始めとして産業の多角化に積極的に取り組んでいる。こうした産業多角化の努力に加え、2004年以降の銅の国際価格上昇と高値安定を背景とした投資の拡大及び輸出の伸びにも支えられて、ザンビア経済はこのところ5%を超える成長率に示される良好な実績を上げている。また、IMF・世界銀行の指導の下、実施してきた経済財政改革努力が評価され、2005年4月には拡大HIPCイニシアティブの完了時点で到達、我が国は同年、円借款債務約740億円、2007年2月、適格な付保商業債務約71億円の債務免除を行ったのをはじめ、主要な二国間ドナーや国際機関が債務免除を行い、対外債務負担が大幅に軽減された。ザンビアの債務持続性は大きく改善している。

(2) 第5次国家開発計画（FNDP : Fifth National Development Plan 2006-2010）

ザンビア政府は今後の開発方針を包括的に打ち出すため、ビジョン2030（2030年までの長期計画）、第5次国家開発計画（2006年から2010年までの中期計画）を策定し、2007年1月に公表した。ビジョン2030では2030年までに中所得国となることを目指しており、これを実現するための中期的な計画として位置づけられるFNDPは、包括的な経済・社会開発計画となっており、特に経済インフラ整備と人的資源開発に焦点を当て、経済成長（年平均7%）を通じた貧困削減を目指している。

表-1 主要経済指標等

指 標		2005年	1990年
人 口 (百万人)		11.7	8.4
出生時の平均余命 (年)		38	46
G N I	総 額 (百万ドル)	6,804.10	3,008.14
	一人あたり (ドル)	500	420
経済成長率 (%)		5.2	-0.5
経常収支 (百万ドル)		-	-594.40
失 業 率 (%)		-	12.4
対外債務残高 (百万ドル)		5,668.25	6,904.82
貿 易 額 ^{注1)}	輸 出 (百万ドル)	-	1,360.30
	輸 入 (百万ドル)	-	1,897.10
	貿易収支 (百万ドル)	-	-536.80
政府予算規模 (歳入) (十億クワチャ)		-	23.13
財政収支 (十億クワチャ)		-	-
債務返済比率 (DSR) (対GNI比, %)		3.5	6.7
財政収支 (対GDP比, %)		-	-
債務 (対GNI比, %)		29.3	-
債務残高 (対輸出比, %)		79.9	-
教育への公的支出割合 (対GDP比, %)		2.0	-
保健医療への公的支出割合 (対GDP比, %)		-	-
軍事支出割合 (対GDP比, %)		-	0.0
援助受取総額 (支出純額百万ドル)		945.03	474.81
面 積 (1000km ²) ^{注2)}		753	
分 類	D A C	後発開発途上国 (LDC)	
	世界銀行等	IDA融資適格国、もしくはIBRD融資適格国 (償還期間20年)	
貧困削減戦略文書 (PRSP) 策定状況		第2次PRSP策定済 (2007年8月) / HIPC	
その他の重要な開発計画等		ビジョン2030、第5次国家開発計画 (FNDP)、郡開発計画	

注) 1. 貿易額は、輸出入いずれもFOB価格。

2. 面積については“Surface Area”の値 (湖沼等を含む) を示している。

表-2 我が国との関係

指 標		2006年	1990年
貿易額	対日輸出 (百万円)	5,811.00	63,121.94
	対日輸入 (百万円)	2,777.44	11,902.22
	対日収支 (百万円)	3,033.56	51,219.71
我が国による直接投資 (百万ドル)		-	-
進出日本企業数		1	1
ザンビアに在留する日本人数 (人)		226	289
日本に在留するザンビア人数 (人)		84	52

ザンビア

表-3 主要開発指数

開 発 指 標		最新年	1990年
極度の貧困の削減と飢饉の撲滅	所得が1日1ドル未満の人口割合 (%)	63.8(1990-2005年)	
	下位20%の人口の所得又は消費割合 (%)	3.6(2004年)	
	5歳未満児栄養失調割合 (%)	20(1996-2005年)	
初等教育の完全普及の達成	成人(15歳以上)識字率 (%)	68(1995-2005年)	65.0(1985-1994年)
	初等教育就学率 (%)	89(2004年)	—
ジェンダーの平等の推進と女性の地位の向上	女子生徒の男子生徒に対する比率(初等教育)	1(2005年)	
	女性識字率の男性に対する比率(15~24歳) (%)	66.2(2005年)	
乳幼児死亡率の削減	乳児死亡率 (出生1000件あたり)	102(2005年)	109(1970年)
	5歳未満児死亡率 (出生1000件あたり)	182(2005年)	181(1970年)
妊産婦の健康改善	妊産婦死亡率 (出生10万件あたり)	830(2005年)	
HIV/エイズ、マラリア、その他の疾病の蔓延防止	成人(15~49歳)のエイズ感染率 ^(B) (%)	17 [15.9-18.1](2005年)	
	結核患者数 (10万人あたり)	618(2005年)	
	マラリア患者数 (10万人あたり)	34,204(2000年)	
環境の持続可能性の確保	改善された水源を継続して利用できる人口 (%)	58(2004年)	50
	改善された衛生設備を継続して利用できる人口 (%)	55(2004年)	44
開発のためのグローバルパートナーシップの推進	債務元利支払金総額割合 (財・サービスの輸出と海外純所得に占める%)	3.3(2005年)	6.1
人間開発指数 (HDI)		0.434(2005年)	0.477

注) []内は範囲推計値。

2. ザンビアに対するODAの考え方

(1) ザンビアに対するODAの意義

同国はアフリカにおける民主的国家、政治的安定勢力として貴重な存在である。また、南部アフリカ開発共同体 (SADC : Southern African Development Community) や同国に事務局を置く東南部アフリカ共同市場 (COMESA : Common Market for Eastern and Southern Africa) 等、地域協力機構における中心メンバーの1つであり、地域の平和と安定に積極的な貢献を行っている。更に、銅・コバルト等鉱物資源の供給国としても重要であることから、同国との協力関係を維持・強化する意義は大きい。

(2) ザンビアに対するODAの基本方針

ザンビア政府は、従来から経済開発分野に加えて保健や教育等の社会開発分野にも重点を置いて取り組んできている。2005年4月に拡大HIPC イニシアティブの完了時点に到達したことにより、我が国をはじめパリクラブのほとんどの債権国により対ザンビア100%の債務免除が行われ、AfDB、IMF、世界銀行の債務も100%免除された。それに伴いザンビア政府は今後政府資金を経済成長に資する分野(経済インフラ、農業、観光、地場産業の育成、貿易・投資促進等)により重点的に投入する方針であり、我が国としても同分野への支援を積極的に推進する方針である。

(3) 重点分野

- (イ) 農村開発を中心とする貧困削減への支援
- (ロ) 費用対効果の高い保健医療サービスの充実
- (ハ) 均衡のとれた経済構造形成の努力に対する支援
- (ニ) 自立発展に向けた人材育成・制度構築
- (ホ) 地域内相互協力の促進

3. ザンビアに対する2006年度ODA実績

(1) 総論

2006年度のザンビアに対する債務免除は70.55億円、無償資金協力は7.71億円（交換公文ベース）、技術協力は20.34億円（JICA経費実績ベース）であった。また、拡大HIPCイニシアティブの適用国である同国は、2005年4月にCP（Completion Point）に到達したことから、2007年2月に適格な付保商業債務70.55億円（交換公文ベース）を免除した。2006年度までの援助実績は、円借款494.97億円、債務免除1,518.41億円、無償資金協力947.47億円（以上、交換公文ベース）、技術協力431.14億円（JICA経費実績ベース）である。

(2) 無償資金協力

首都未計画居住区（コンパウンド）の生活環境の改善のため、コンパウンド地区へのアクセス道路の整備を行う「第三次ルサカ市道路網整備計画」を継続実施した。麻疹、結核、ポリオ等の予防接種拡大計画（EPI）を支援するワクチン保冷用機材を全国の診療所に供与する「第二次予防接種体制整備計画」、妊産婦と幼児を中心とするマラリア対策のために長期防虫残効型の蚊帳72万人分を供与する「マラリア対策計画」を開始し、また世界食糧機関（WFP）を通じた食料援助を実施した。

(3) 技術協力

主要作物「メイズ」に生産が偏重する農業の基盤強化のため、キャッサバなどの根菜類作物の生産増加など食物の多様化を促進する技術協力プロジェクト「食料安全保障向上を目的とした食物多様性支援計画」や、HIV/エイズ対策の自発的検査受診の体制整備など、ザンビアの現状に合ったエイズ対策を策定する「HIV/エイズケアサービス強化プロジェクト」の実施を開始した。また、保健・医療、村落開発、給水、教育等の分野において新たに25名の専門家、35名のJOCV、3名のシニア海外ボランティアの派遣を実施した。さらに、感染症対策等を目的とした医療機材の供与も引き続き実施した。

4. ザンビアにおける援助協調の現状と我が国の関与

(1) 援助調和化（HIP：Harmonization in Practice）

ザンビアでは近年援助協調の動きが活発化しており、我が国としては、包括的アプローチとニーズに応じた援助方式の多様性確保の重要性を指摘しつつ、主要ドナーの1つとしてこうした動きに積極的に参加している。

2003年3月、援助調和化に係る覚え書きがザンビア政府及びLike-mindedドナー7か国（英国、オランダ、デンマーク、アイルランド、スウェーデン、フィンランド、ノルウェー）との間で締結・署名された。右覚書きの見直しが提案され、2004年4月、調和化上級レベル会合において、ザンビア政府及び10ドナー（英国、オランダ、デンマーク、ノルウェー、フィンランド、スウェーデン、アイルランド、ドイツ、UNDP、世界銀行）が署名を行った。我が国は同年6月に署名し、米国は2006年7月に署名した。

2005年より共同支援戦略（JASZ：Joint Assistance Strategy for Zambia）の議論が活発化し、各セクターでのリードドナーの設定に係るTOR並びにドナー間の役割分担によるセクターの融通と一部セクターの混雑緩和を促進するための協議、調整が行われた。

2007年5月には各ドナーによりJASZへの署名が行われ、我が国を含む18の国・国際機関が署名した。なお、我が国は地方分権化セクターにおいて、世界銀行、ドイツとともにリードドナーを務めている。

(2) SWAPs

ザンビアでは、保健、教育、道路、民間セクター開発の4つのセクターにおいてセクター・ワイド・アプローチが導入されている。保健セクターでは、枠組文書（MOU：Memorandum of Understanding）の署名式が2006年6月に行われ、我が国も同MOUに署名した。

今後は地方分権、観光・環境セクターでもSWAPsが導入される予定である。

5. 留意点

同国では現地ODAタスクフォースが設置されており、一層の戦略的、効率的、効果的なODAの実施に努めている。

ザンビア

表-4 我が国の年度別・援助形態別実績（円借款・無償資金協力年度E/Nベース、技術協力年度経費ベース、債務免除実額ベース）

（単位：億円）

年度	円 借 款	無償資金協力	技 術 協 力
2002年	—	22.57	18.69 (18.17)
2003年	—	18.64	16.63 (16.19)
2004年	—	18.83	17.82 (17.46)
2005年	—	23.45	16.42 (15.94)
2006年	(70.55)	7.71	20.34
累 計	494.97	947.47	431.14

- 注) 1. 年度の区分は、円借款及び無償資金協力は原則として交換公文ベース、技術協力は予算年度による。
 2. 「金額」は、円借款及び無償資金協力は交換公文ベース、技術協力はJICA経費実績及び各府省庁・各都道府県等の技術協力経費実績ベース、債務免除は免除実額ベースによる。
 3. 円借款の累計は債務繰延・債務免除を除く。また、()内の数値は債務免除額。
 4. 2002～2005年度の技術協力においては、日本全体の技術協力事業の実績であり、2002～2005年度の()内はJICAが実施している技術協力事業の実績。なお、2006年度の日本全体の実績については集計中であるため、JICA実績のみを示し、累計についてはJICAが実施している技術協力事業の実績の累計となっている。

表-5 我が国の対ザンビア経済協力実績

（支出純額ベース、単位：百万ドル）

暦 年	政府貸付等	無償資金協力	技 術 協 力	合 計
2002年	21.40	32.34	14.64	68.38
2003年	-7.68	19.55	16.45	28.32
2004年	-7.54	7.51	14.28	14.25
2005年	-616.15	732.90	15.19	131.94
2006年	—	16.79(1.00)	14.75	31.54
累 計	-311.48	1,466.50(1.00)	351.26	1,506.31

出典) OECD/DAC

- 注) 1. 従来、国際機関を通じた贈与は「国際機関向け拠出・出資等」として本データブックの集計対象外としてきたが、2006年より拠出時に供与先の国が明確であるものについては各被援助国への援助として「無償資金協力」へ計上することに改めた。()内はその実績(内数)。
 2. 政府貸付等及び無償資金協力はこれまでに交換公文で決定した約束額のうち当該暦年中に実際に供与された金額(政府貸付等については、ザンビア側の返済金額を差し引いた金額)。
 3. 技術協力は、JICAによるもののほか、関係省庁及び地方自治体による技術協力を含む。
 4. 四捨五入の関係上、合計が一致しないことがある。
 5. 政府貸付等の累計は、為替レートの変動によりマイナスになることがある。

表-6 諸外国の対ザンビア経済協力実績

（支出純額ベース、単位：百万ドル）

暦年	1位	2位	3位	4位	5位	うち日本	合 計
2001年	英国 55.76	日本 47.04	オランダ 29.64	米国 29.04	デンマーク 22.60	47.04	274.11
2002年	日本 68.38	米国 48.29	ドイツ 44.22	オランダ 35.45	デンマーク 32.19	68.38	359.52
2003年	ドイツ 233.16	英国 65.89	米国 63.60	ノルウェー 35.60	オランダ 35.01	28.32	591.88
2004年	英国 282.55	フランス 103.80	米国 81.77	オランダ 53.55	デンマーク 45.10	14.25	745.81
2005年	英国 165.73	日本 131.94	米国 124.1	ドイツ 118.15	オランダ 55.94	131.94	835.86

出典) OECD/DAC

表-7 国際機関の対ザンビア経済協力実績

（支出純額ベース、単位：百万ドル）

暦年	1位	2位	3位	4位	5位	そ の 他	合 計
2001年	IDA 135.80	CEC 44.20	AfDF 12.18	UNHCR 11.68	WFP 7.58	-137.77	73.67
2002年	IDA 149.66	CEC 104.02	AfDF 25.37	UNHCR 16.06	WFP 11.02	-28.78	277.35
2003年	IDA 97.68	CEC 79.38	AfDF 11.28	UNHCR 11.16	GFATM 8.94	-216.60	-8.16
2004年	IDA 156.02	CEC 123.78	GFATM 43.96	AfDF 10.70	UNHCR 10.41	31.95	376.82
2005年	CEC 139.08	IDA 101.80	GFATM 52.09	AfDF 16.03	WFP 7.39	-207.76	108.63

出典) OECD/DAC

- 注) 順位は主要な国際機関についてのものを示している。

表-8 我が国の年度別・形態別実績詳細 (円借款・無償資金協力年度E/Nベース、技術協力年度経費ベース、債務免除実額ベース)

(単位：億円)

年度	円 借 款	無 償 資 金 協 力	技 術 協 力
2001年 年度までの累計	494.97億円 (内訳は、2006年版の国別データブック、もしくはホームページ参照 (http://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/shiryo/jisseki.html))	856.27億円 (内訳は、2006年版の国別データブック、もしくはホームページ参照 (http://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/shiryo/jisseki.html))	343.05億円 研修員受入 1,183人 専門家派遣 449人 調査団派遣 1,192人 機材供与 4,707.04百万円 協力隊派遣 856人 その他ボランティア 6人
2002年	なし	22.57億円 第二次ルサカ市道路網整備計画 (国債2/3) (9.06) チルド橋建設計画 (国債4/4) (1.47) 干ばつ地域給水計画 (3/3) (4.89) 食糧援助 (WFP経由) (3.00) 緊急無償 (干ばつ災害) (3.66) 母国帰還前のアンゴラ難民に対する地雷回避教育計画 (0.08) ザンビア国ルカサ市コミュニティーヘルスポスト建設プロジェクト (0.11) 草の根無償 (10件) (0.29)	18.69億円 (18.17億円) 研修員受入 184人 (150人) 専門家派遣 24人 (24人) 調査団派遣 50人 (50人) 機材供与 140.04百万円 (140.04百万円) 留学生受入 15人 (協力隊派遣) (45人) (その他ボランティア) (5人)
2003年	なし	18.64億円 感染症対策計画 (5.10) 第二次ルサカ市道路網整備計画 (国債3/3) (8.65) 債務救済 (3.36) リビングストーン博物館に対する視聴覚機材供与 (0.20) 食糧援助 (WFP経由) (1.00) 草の根・人間の安全保障無償 (7件) (0.32)	16.63億円 (16.19億円) 研修員受入 158人 (157人) 専門家派遣 26人 (24人) 調査団派遣 22人 (20人) 機材供与 147.0百万円 (147.0百万円) 留学生受入 18人 (協力隊派遣) (24人) (その他ボランティア) (5人)
2004年	債務免除 (52.70)	18.83億円 ルサカ市未計画居住区住環境改善計画 (国債1/2) (1.98) 第二次ルサカ市小中学校建設計画 (1/2) (6.33) 北部州地下水開発計画 (1/2) (4.91) 第二次感染症対策計画 (4.15) 食糧援助 (WFP経由) (1.00) ザンビア国营テレビ局に対する番組ソフト供与 (0.18) 草の根・人間の安全保障無償 (8件) (0.28)	17.82億円 (17.46億円) 研修員受入 155人 (141人) 専門家派遣 24人 (24人) 調査団派遣 40人 (40人) 機材供与 156.39百万円 (156.39百万円) 留学生受入 22人 (協力隊派遣) (27人) (その他ボランティア) (1人)
2005年	債務免除 (740.10)	23.45億円 ルサカ市未計画居住区住環境改善計画 (国債2/2) (2.63) 第二次ルサカ市小中学校建設計画 (2/2) (6.36) 北部州地下水開発計画 (2/2) (2.86) 第三次ルサカ市道路網整備計画 (6.79) 食糧援助 (WFP経由) (1.50) 貧困農民支援 (2.80) 日本NGO支援無償 (1件) (0.15) 草の根・人間の安全保障無償 (4件) (0.36)	16.42億円 (15.94億円) 研修員受入 104人 (83人) 専門家派遣 33人 (29人) 調査団派遣 43人 (39人) 機材供与 107.42百万円 (107.42百万円) 留学生受入 62人 (協力隊派遣) (64人) (その他ボランティア) (6人)
2006年	債務免除 (70.55)	7.71億円 第二次予防接種体制整備計画 (2.83) マラリア対策計画 (3.08) 食糧援助 (WFP経由) (1.50) 日本NGO支援無償 (1件) (0.20) 草の根・人間の安全保障無償 (1件) (0.10)	20.34億円 研修員受入 216人 専門家派遣 25人 調査団派遣 94人 機材供与 130.32百万円 協力隊派遣 35人 その他ボランティア 3人

ザンビア

年度	円 借 款	無 償 資 金 協 力	技 術 協 力
2006年度までの累計	494.97億円	947.47億円	431.14億円 研修員受入 1,930人 専門家派遣 575人 調査団派遣 1,435人 機材供与 5,388.20百万円 協力隊派遣 1,051人 その他ボランティア 26人

- 注) 1. 年度の区分は、円借款及び無償資金協力は原則として交換公文ベース、技術協力は予算年度による。
 2. 「金額」は、円借款及び無償資金協力は交換公文ベース、技術協力はJICA経費実績及び各府省庁・各都道府県等の技術協力経費実績ベース、債務免除は免除実績ベースによる。
 3. 円借款の累計は債務繰延・債務免除を除く。
 4. 「貧困農民支援」は、2005年度に「食糧増産援助」を改称したものの。
 5. 2002～2005年度の技術協力においては、日本全体の技術協力の実績であり、2002～2005年度の（ ）内はJICAが実施している技術協力事業の実績。なお、2006年度の日本全体の実績については集計中であるため、JICA実績のみを示し、累計についてはJICAが実施している技術協力事業の実績の累計となっている。
 6. 調査団派遣にはプロジェクトファインディング調査、評価調査、基礎調査研究、委託調査等の各種調査・研究を含む。
 7. 四捨五入の関係上、累計が一致しないことがある。

表－9 実施済及び実施中の技術協力プロジェクト案件（終了年度が2002年度以降のもの）

案 件 名	協 力 期 間
エイズおよび結核対策プロジェクト	01. 3～06. 3
孤立地域農業参加型村落開発計画	02. 6～07. 5
ルサカ市プライマリー・ヘルスケアフェーズ2プロジェクト	02. 7～07. 7
国境におけるHIV/AIDS及び性病啓蒙活動プロジェクト	03. 6～06. 3
PRSPモニタリング制度構築のための地方行政能力向上プログラム	04. 9～07. 3
地方給水維持管理能力強化プロジェクト	05. 9～07. 8
SMASTE理科研究事業支援プロジェクト	05.10～07.10
ザンビア・イニシアチブ地域における農村開発計画	06. 1～08.12
家畜衛生・生産技術普及向上計画	06. 1～09. 1
保健投資計画策定支援プロジェクト	06. 2～08. 1
HIV/AIDSケアサービス強化プロジェクト	06. 4～09. 3
地方分権化のための能力強化プログラム	06. 7～09. 3
南南協力を通じた投資促進環境整備プロジェクト	06. 7～09. 3
食糧安全保障向上のための食用作物多様化支援プロジェクト	06.10～11.10

表－10 実施済及び実施中の開発調査案件（終了年度が2002年度以降のもの）

案 件 名	協 力 期 間
地方電化マスタープラン開発調査	06. 5～07. 9
鉱物分野投資促進のための地質・鉱物資源情報整備調査	07. 2～09. 2

表－11 2006年度草の根・人間の安全保障無償資金協力案件

案 件 名
マザー・オブ・マーシー・ホスピスARVクリニック建設計画

図－1 当該国のプロジェクト所在図は707頁に記載。